



卒業生による海外大学進学相談会実施報告

本校公式ホームページでは既にご報告しましたが、グローバル通信153号でお知らせした本校卒業生による海外大進学相談会を7月11日（金）に実施しました。平日にもかかわらず生徒・保護者約50名が集まって下さいました。今回は下記の6名の卒業生から貴重なお話を伺うことができました。

- （対面参加）塩川 龍哉さん（本校2022年卒業 トロント大学卒）
 下河邊 太智さん（本校2024年卒業 マサチューセッツ工科大学）
 尾関 裕宜さん（本校2025年卒業 ポモナ大学入学予定）
 （オンライン参加）双川 凜生さん（本校2021年卒業 ジョージア工科大学）
 池田 隼さん（本校2022年卒業 カリフォルニア工科大学）
 勝山 翔紀さん（本校2023年卒業 カリフォルニア大学サンディエゴ校）

アメリカではただ講義を受けるだけでなく学生同士のディスカッションが重要視されるのがどの大学でも共通なようで、答えのない問いに対して意見を交わしながら取り組む中で本物の学びを得ているようです。話を聞いていると日本に比べて学生のフリーハンドの範囲が広く、自分が望めば大学院レベルの授業を受講できたり、専攻分野の選択もかなり融通が効くようです。将来のキャリアを考えるに当たっても、日本国内からという発想ではなく最初から世界全体を対象に考えるため出会いの幅が広がるそうです。夜遅くまで図書館で過ごす忙しい日々の中でも、時間を見つけてスポーツ観戦をするなど自分なりの楽しみを見つけて充実した日々を過ごしているようです。

先輩たちが本校在校中はどんな学校生活を送っていたのが当然気になる所かと思います。今回の6名に限らずこれまで海外を目指してきた卒業生たちは日本国内の大学も視野に入れて文字通り二刀流の受験準備をしていました。全く違うタイプの受験勉強を2通りこなすのは相当大変なことで側から見てもよく両立できるなと思うことが度々ありました。タイムマネジメント力は重要なスキルと言えます。6名とも在学中は勉強ばかりしていたかという決してそんなことはなく、部活動も楽しんでいて、海外大で重要な評価ポイントになる課外活動の実績という点でも誇らしい成果を挙げていました。先日朝日新聞朝刊の「折々のことば」で「これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」という論語の言葉が紹介されていました。執筆者の鷺田清一先生は解説の中で「馴染みの理髪店主がふと呟いた「努力は夢中に勝てへんて、よう言いますね」という言葉を引用して、「夢中でいると何と競うこともない、だから無敵だと説明してくれた。」と結んでいました。今回の6名も今から思うとまさにその境地だったのではないかと感じています。それぞれの課外活動を心から楽しんでいる内に気づいたら受賞していたという理想形と言えるのではないのでしょうか。

来場者全体に向けてのレクチャーの後は2グループに分かれて質疑応答の時間を設けて個別の質問にも丁寧に答えていただきました。大変有意義な時間を提供していただき6名の卒業生に御礼申し上げます。



塩川さん



尾関さん



下河邊さん



個別相談風景

米国5大学 アドミッション説明会のお知らせ（高1～高3対象 中学生も可）

柳井正財団主催によるアメリカ5大学のアドミッションオフィサーによるオンライン合同説明会が開催されます。柳井財団の財団生も加わり、質疑応答のタイミングでサポートもしていただけるということです。希望者はぜひこの機会をご利用下さい。

日時：8月27日（水）午後19時30分より約2時間

- 参加大学：◆Brown University, Stephanie Eto (Associate Director of Admission)
 ◆Columbia University, Jess Lee (Director of Selection and Outreach)
 ◆Princeton University, Helen Dorini (Assistant Dean of Admission)
 ◆Swarthmore College, Yulia Korovikov (Associate Dean of Admissions, Director of Recruitment)
 ◆Yale University, John Yi (Associate Director of International Admissions)

費用：無料

対象：主に高校1年生～高校3年生 中学生でも参加可能

申込：事前予約が必要になります。8月24日締め切り。申込は各自でお願いします。

イベントの詳細及び事前予約については以下の URL をご参照下さい。時間が限られているため、質問したい内容をあらかじめ考えておくことが推奨されています。

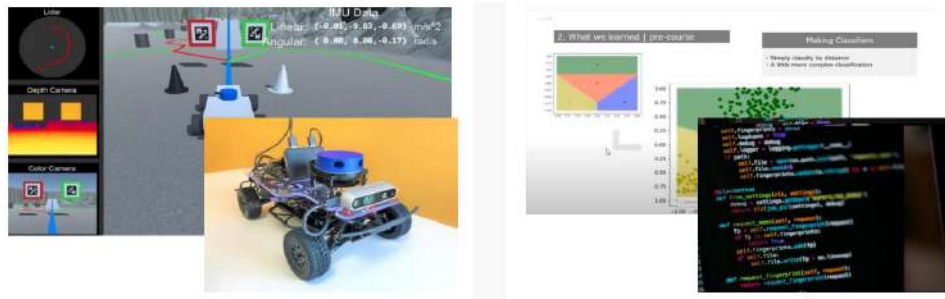
<https://www.yanaitadashi-foundation.or.jp/news/1aPDDCHSXW3UGZ7TmWDRqB/>

Global Tech 自動運転ロボコン国内大会報告

昨年度グローバル通信146号でMIT協賛の自動運転ロボコンについてご紹介しました。大会概要を一部再掲します。

【自動運転ロボコンとは？】

- ・障害物のあるコースを自動走行する小型自動車を開発し、レースを行う大会です。
- ・レース前の約3ヶ月間、Pythonや画像認識等、自動運転に必要な知識を学習するのでプログラミング初心者でも参加できます。
- ・日本大会で優勝したチームはMITで開催される世界大会に出場します。



本校からは物理部所属の中学3年生3名がチームを組んでエントリーしました。今年の2月から5月にかけて他校の生徒と共に土曜日の午後を使ってPythonを用いたプログラミングや画像認識について事前学習を重ね、4月からは各チームで実際のマシンを動かす始めました。6月15日(日)に開成高校にて国内大会が開催されました。本校は残念ながら世界大会への出場はかないませんでしたが、3名それぞれに学ぶことも多かったようです。3名から原稿を寄せてもらいましたのでぜひお目通し下さい。昨年イベントを紹介する記事を掲載した際には長期のプロジェクトでかなりの費用も発生するので参加希望は出ないのではないかと考えておりましたが、エントリー対象となる最下学年である中学2年生(24年度時)から応募が出たことを知った際には、グローバル通信がきっかけで新たなチャレンジへの第一歩となり大変嬉しく思いました。冒頭の海外大学相談会に関わってくれた先輩たちとついつい重ね合わせてしまうのですが、まさに「楽しくて面白そうだな。」という思いがエントリーにつながったのだと感じます。国内大会を通じて得た修正事項を活かして今後も自動運転技術に更なる磨きをかけていただきたいと願っています。

中学3年5組 堀 宏綺

私は先日、首都圏の中高生が集まる自動運転車のレースイベント「Global Tech」に参加しました。このイベントでは、参加者自身が車両の設計・組み立て・プログラミングを行い、センサーやモーターを用いて自律走行する車両を競わせます。AIによる制御ではなく、事前に組み込んだプログラムとセンサーの情報をもとに車両が判断・走行するため、技術的な工夫と精密な調整が求められました。

会場には、同年代とは思えないほど専門的な知識を持った参加者が集まり、それぞれのチームが真剣に技術と向き合っている姿に圧倒されました。私はチームの一員として、車両の制御プログラムを担当しました。センサーからの距離情報やライン認識をもとに、車両がどのように進むかを決定するロジックを構築し、何度もテストと修正を繰り返しました。

予選では、センサーの誤作動によって車両がコースを外れてしまうというトラブルが発生しました。焦りもありましたが、チームで冷静に原因を分析し、センサーの取り付け角度やプログラムの条件分岐に問題があることを突き止めました。その後、プログラムを修正し、再テストを重ねた結果、決勝では無事に完走することができました。完走した瞬間の達成感は、言葉では言い表せないほど大きなものでした。

このイベントを通じて、技術的な知識だけでなく、チームワークや問題解決力の重要性を深く学ぶことができました。一人では解決できない課題も、仲間と協力することで乗り越えられるという経験は、今後の進路を考えるうえでも大きな糧となりました。将来は、ロボティクスや組込みシステムの分野で社会に貢献できる技術者になりたいという思いが、より一層強くなりました。

Global Techへの参加は、私にとって技術の面白さと人とのつながりの大切さを教えてくれる、かけがえのない体験となりました。

中学3年4組 山下 透和

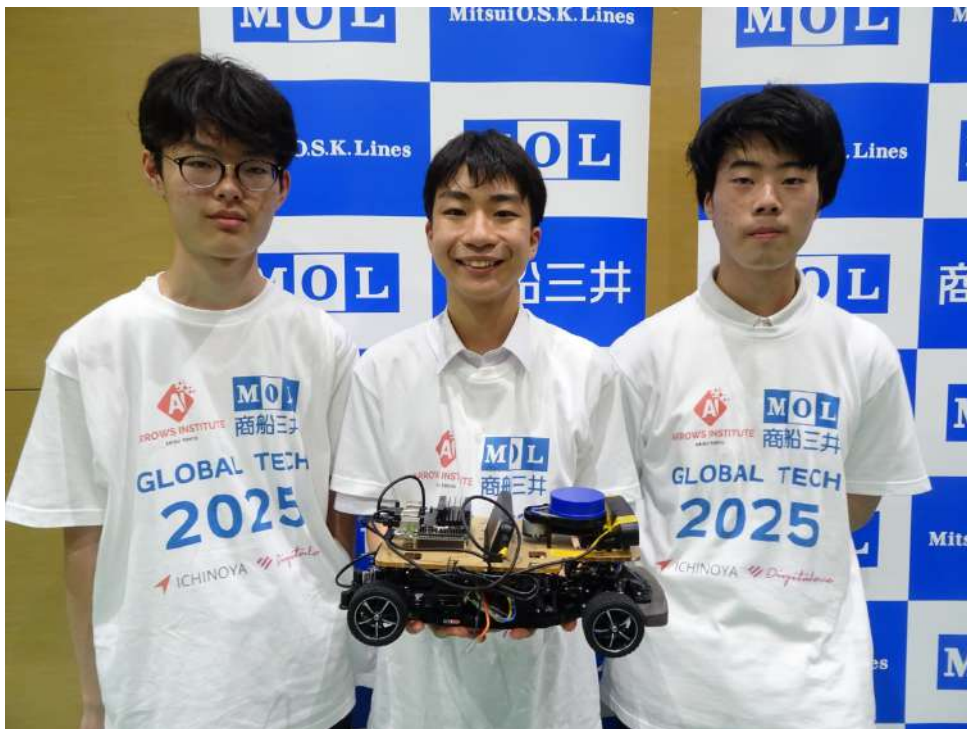
今回のGLOBAL TECHでは3人で役割を分担して行いました。主にコードの制作役、実機の調整役、コードの制作と実機の調整の間を担う役の三つの役に分けて行いました。

僕は、コードの制作の担当をさせていただきました。この担当をして、コードをシミュレーション上で上手に実行できても実際に動かすと思った通りに全然動かないということを体験しました。なぜこのようなことが起きたかという、シミュレーション上と違い、実機を動かす際は反応速度や実際の値に誤差ができることを加味するとかなり環境が異なっているからです。なので、ある程度プログラミングができる人であっても、ロボットなどを動かす際は実機役とどれだけ上手にコミュニケーションが取れるかがかなり勝敗を左右したことがわかりました。これらのことから、今回のGLOBAL TECHを通して、プログラミングは個人戦ではなく団体戦でもあるということを知りました。

僕の話に少しでも興味を持った方は、ぜひプログラミングをやってみてください。また、物理部でもロボットを動かす活動を行っているので興味を持ってくださった方がいらっしゃったらぜひ物理部に顔を出してみてください。

中学3年1組 入江 亮輔

自分は、あまりロボットなどについてやったことがなかったのですが、まずこのような大きな大会に参加できたことを感謝したいと思います。僕は、コードを書くソフトウェア開発の方ではなく機材調整の係をやったのですが、ハードの扱いがとても未熟でした。まずレースカーが家に届いた時大きすぎてとても驚きましたし、組み立てるのもとても大変でした。機材はかなり注意を払って使ったつもりでしたが、大会直前になりいざ走らせてみるとLiDARという距離センサーがまともに動かなくなってしまい、これではまともに走行できないので正常なものと取り替えることに多くの時間を費やしてしまいました。いざ走らせるときになっても、自分がパソコンの充電をこまめにしていなかったせいで、パソコンの電源がなくなり画面がブツンときれて、調整が間に合わなくなってしまい、機材係としては本当に申し訳なかったです。このように、自分が機材の取り扱い方に注意を払えず、プログラミングをやってくれている山下君、堀君の意見やデバッグを十分発揮できなかったことは最大の反省点であると考えています。また、トラブルがかなり多く、それを冷静に乗り切ったりするのも大変でしたが、チームのみんなが支えてくれたおかげでどうにか走らせることができました。また、プログラミングコードでみんなが何をやっているかわからない時もありましたし、山下君、堀君とうまくコミュニケーションが取れないこともしばしばありました。これらのことを通して、今度から、トラブルはかなりの高頻度で起きて当たり前のものであると常に考え、機材にもっとたくさん触れて、プログラミングをもっと学んで、機材係とプログラミング係をうまくまとめるクッションのような人になりたいなと思います。走り切れたのはチームのみんなの協力の成果だと思います。本当にみんなで頑張ったし、誇っていいことだと思いました。



マシンと共に 山下君、堀君、入江君

Stanford e-Japan 受講修了報告

アメリカのスタンフォード大学が日本の高校生を対象に **Stanford e-Japan** というオンライン講座を実施しています。日本時間の土曜の午後の時間を使ってオンライン上ではありますが、講義・ディスカッション・グループワークといったアメリカ型の授業を一足先に経験します。受講には事前の選考を通過する必要があります。高校3年生田口君から講座修了に当たり原稿を寄せてもらいましたのでぜひご覧下さい。

高校3年2組 田口 尋一郎

この度 **Stanford e-Japan Spring 2025** に参加させていただきました田口尋一郎です。**Stanford e-Japan** は米国スタンフォード大学が主催する、日本に住む高校生のために行われるプログラムです。週替わりのテーマについてオンラインで講義を聞き、毎週土曜日、それについてゲストスピーカーと対話し参加者同士でディスカッションを行います。そしてプログラムの最後には、自ら好きなテーマを選び、論文を執筆します。

プログラムを通して、アメリカ社会や日米関係について学ぶことができます。ただ、それ以上に価値があるのは、普段の日本の授業とは異なる視点から物事を捉える機会が得られることだと思います。日本人にとって原爆が悲劇であるように、アメリカ人にとって真珠湾攻撃はアメリカの歴史に深く刻まれている出来事であり、二つの事件は簡単に比較できるものではないにしても、アメリカ人の教授から直接その話を聞くのは新鮮で胸に響くものがありました。

論文では、トランプ政権の復活以降アメリカがモンロー主義と呼ばれる孤立主義的な傾向を強めていると指摘されていることを受け、モンロー主義の変遷を辿り、当時と今の状況を比較した上で日本の外交政策について考察を行いました。

授業外で新たな知見を得たい人、英語力を伸ばしたい人（帰国生でない人もたくさんいます）、校外の高校生と繋がりたい人にはおすすめです。今、秋のプログラムの応募をしているので、ぜひ挑戦してみてください。

今回僕は2度目の挑戦で参加が叶いました。推薦状を2度書いてくださった岡崎先生と川越先生、エッセイを見てくださった中山先生、山田先輩、ありがとうございました。



↑ グループプロジェクトのスライド。輪島塗について扱いました。

アスペンジュニアセミナーのお知らせ（高2限定 無料）

【目的と効果】

このセミナーは、東西の「古典」を教材に、参加者による「対話」を通じて「善く生きるとは」、「何のために学ぶのか」、「何のために働くのか」、「大切にしたい価値」といった人生の重要な課題について考えることを目的としています。難解な古典のテキストを徹底的に読むことにより高い読解力を養うだけでなく、古典に触れる喜びを体験します。学校の授業とは異なり、正解のない事柄に対して、自分の頭で懸命に考え抜く経験をし、さらに「対話」を通してそれぞれが考えたことを披瀝しあうことで、視野を広げ、判断力を高め、将来大きな困難に遭遇した時に何らかの解決の糸口を発見する力を養います。

【セミナーの進め方】

各校からの参加者1クラスあたり15人～20人編成の3クラスで、10月のオンラインオリエンテーションを皮切りに、11月・12月・1月の各月1回、日曜あるいは祝日の午後を使って、対面での対話が繰り広げられます。参加者は、事前に配布する東西の「古典」を抜粋したテキストを何度も読み、セミナーに備えます。

セミナーは、筆者の考えに対する自分の意見を述べる「対話」によって進められます。ほかの参加者の意見に耳を傾け、自分が思いもよらなかった気づきを得られ、逆に自分もほかの人に大きな刺激や示唆を与えることもあります。

モデレーターと呼ばれる進行役の先生は、直接的には何も教えません。参加者同士の対話を通して、自分自身への反省や発見、そして著作や著者に対する思索を深めます。

一人でテキストを読んでいた時は難しくて歯が立たなかった古典がモデレーターの進行により、参加者の皆さんがさまざまな意見を出し合い、皆の知恵を合わせることで理解が進み、そこから新たな気づきが生まれ、古典の偉大さ、面白さを実感できます。

【実施スケジュール】全日程出席が参加の条件です。

オリエンテーション：ZOOM ミーティングによるオンライン開催

10月26日（日）午前10時～12時

セミナー：対面開催（東洋大学京北高等学校にて）

Day 1 11月16日（日）午後1時～5時20分

Day 2 12月21日（日）午後1時～5時20分

Day 3 1月12日（月・祝）午後1時～5時20分

時間は変更の可能性があります。

【参加条件】

- ・参加者は高校2年生に限定します。
- ・オリエンテーションを含めた全日程4日間すべて出席できること。
- ・オリエンテーションで使用するパソコン・その他デバイス・インターネット環境が整っていること。（タブレット、スマートフォンは推奨しません。）

【使用テキスト】

オリエンテーション 芭蕉 「おくのほそ道」

Day 1 アリストテレス「形而上学」 ソロー「ウォールデン」

Day 2 旧約聖書「創世記」 オルテガ「大衆の反逆」

Day 3 森鷗外 「かのように」

【セミナーにご参加いただく先生（予定）】

荻野 弘之 先生（上智大学教授）

荻部 直 先生（東京大学教授）

ランドル・ショート先生（慶應義塾大学教授） 他、産業界の先生方

【参加場所】

オリエンテーションは各自の自宅からオンライン参加

対面のセミナーは東洋大学京北高等学校（文京区白山2-36-5）で実施

最寄駅は都営地下鉄三田線白山駅

【費用】

無料。但し対面セミナー会場までの交通費は各自負担。

【校内募集】

定員：1校からの応募は3名までとなっています。

応募締切：9月5日（金）朝8時までグローバル教育部に以下の書面を提出。

提出物：A4サイズの用紙にクラス・番号・氏名・メールアドレス・志望動機を書いて下さい。手書きでもPCを使用してもどちらでも結構です。

選考：4名以上の応募があった場合は何らかの選考を実施します。3名以下でも志望動機があまりに希薄な場合は応募を遠慮してもらいます。

本校特有の事情として修学旅行第2隊のクラスは出発が10月26日（日）となりオリエンテーションと重なってしまいます。「全日程に参加できること」という条件に抵触してしまうため、1隊の生徒の応募があった場合は主催団体と相談の上、了承が得られればエントリーを認めます。部活動をしている生徒諸君は11月以降の日程に公式戦が重なっていないかなどもよく確認した上で応募して下さい。

対面セミナーで使用するテキストは日本語で書かれていますので、英語力がないからと遠慮する必要はありません。

日本アспен研究所公式HPでこれまでのセミナー参加者からのコメントが掲載されています。2021年本校卒業の高橋さん、2024年卒業の大河内さんのコメントが以下のURLよりご覧いただけます。

<https://aspeninstitute.jp/seminar/highschool/>

